

☆。∴。★。∴。☆。∴。★。∴。☆。∴。★。∴。☆。∴。★。∴。

週刊 「宅老所・グループホーム全国ネットワーク NEWS」

《Vol.326 (通巻 371 号) 2010.6.3》

★。∴。☆。∴。★。∴。☆。∴。★。∴。☆。∴。★。∴。

\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*

会員のみなさま、新会員のみなさま、こんにちは。

A 会員、B 会員のみなさまには、

2010 年度宅老所・グループホーム全国ネットワーク総会のご案内が  
お手元に届いたところかと思えます。

委任状の提出は6月14日(月)までとなっておりますので、  
お手数ですが、お早目の返信をお願いいたします。

\*~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*・♪~\*・\*~\*

…………… 今週のトピックス \_\_\_\_\_

- ◆1◆ 実践報告 特定非営利活動法人つどい場さくらちゃん(兵庫県西宮市)
- ◆2◆ 新聞記事

…………… \_\_\_\_\_

◆1◆ 実践報告

特定非営利活動法人つどい場さくらちゃん① ◆◆-----◆

NPO 法人つどい場さくらちゃん(兵庫県西宮市) 理事長 丸尾多重子さん  
～認知症高齢者を在宅で支えるための、  
地域の居場所やデイサービスなどの役割 1～

つどい場さくらちゃんは、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場の近くにあり  
ます。西宮市の市花サクラに、「ちゃんと生きよう」の「ちゃん」をつけ  
て、「さくらちゃん」という名前にしました。さくらちゃんは、オープン  
から7年が経過しました。地域で最期まで在宅で過ごしたいと願ったとき  
に、ハートがあって、きちんとしている立派な事業所がいっぱいあれば、  
その思いや望みをかなえていけると思いますが、人口が48万人を超える西  
宮市では、残念ながら地域によって事情が全然違ってきます。誰もが同じ  
条件で受けることができるはずの介護保険制度を使っても、同じ西宮市内  
でも地域によって選択肢がまったく異なっています。私は癌だった母と躁  
うつつの兄と認知症の父を、10年間介護しました。当時は、1つの特養のデ  
イサービスしか使えない地域や、隣の神戸市から訪問看護やケアマネジャー  
に来てもらっている地域など、さまざまでした。

自分の経験から、介護をする人には、いつでも集える場所と、温かい食事が欠かせないと考えて、つどい場さくらちゃんを開設しました。私が介護をしているとき、社会からの孤立感がすごくありました。そのときに、この孤立感や、言葉に出すことができないもやもやした感情を持って行ける場所があればいいのになあと感じていました。元気でないと介護はもっとしんどくなります。

元気でいるためのたいせつな要素の1つに食べることがあります。食事は1人でしていると、どんなに美味しいものでもあまりおいしいと感じません。世間話をしながら、笑いながら食事をしていると、充実した時間を過ごすことができ、食事がおいしく感じるのだと思います。

いまだに「つどい場ってなに？」とよく聞かれます。つどい場さくらちゃんは、普通の1軒家を借りて、介護をする人を支えています。10人が入れればいっぱいになるリビングルームで、40人ほどの人が好きなときにやってきて、介護でたまったストレスを発散させていきます。いつでも誰でも、1回500円で利用いただいています。みんなでお昼ご飯を食べたりしています。相談も多くあります。介護に疲れて死にたいという深刻な話も少なくありません。介護で悩み、煮詰まり、誰かに聞いてほしいという思いは、曜日や時間を選ばずにあふれ出てきます。自分が話したことを、ちゃんと聞いて受け止める人がいないと、どんどんつらさが心にたまってきてしまいます。さくらちゃんでは、24時間365日、電話で相談を受けています。

つどい場という場所の答えは、いろいろな人がつどえる場所、ということです。介護している人だけが集まるのならば、介護者家族の会がほとんどの市町村にあり、それでいいと思います。でも、介護者家族だけで集まっているのでは、感情の吐露をしても、あまり情報も入ってこない。介護者家族だけでなく、いろいろな人が集まる場所でつどい場をつくりたかったのです。

さくらちゃんは、この7年でいろいろな人が集まる場所になりました。最近では、仕事でいっぱいになったケアマネジャー、介護職、医者、看護師、学生、大学の先生、行政、社協、いろいろな人が来てくれています。もちろん、介護の必要な人も来ます。一緒にお昼を食べながら、お茶を飲みながら、本音の部分で語り合っています。

実は、こういった場を持つまでは、介護者家族は、介護職の人たちに対して「あなたたちはプロだから」と要求をしていました。でも、実際に介護現場で抱えているしんどさを聞くと、そういう思いもあつたのか、と理解し、共感することもできます。また、介護職の人にとっても、つどい場で介護者家族のしんどさを話し合っているうちに、その気持ちが理解できるようになります。(つづく)

※この実践報告は、2010年1月23日(土)~24日(日)、仙台市で開催した「地域の居場所・デイサービス全国実践交流セミナーin せんだい・みやぎ」での発表をまとめたものです。

【無料低額宿泊所：グループホームも対象 議員立法案】

不透明な経理や金銭管理トラブルが問題になった「無料低額宿泊所」を巡り、民主党の議員連盟が規制強化を目指して作成中の法案に、無届け老人施設やグループホームなどを対象施設として加えることがわかった。自治体が把握できない施設に規制の網をかけるのが狙いだ。

法案が規制対象とするのは「生活保護受給者らに住居と食事などのサービスを提供する事業者」で、無届け老人施設やグループホームのほか▽ケアハウス▽アルコールや薬物依存症患者向けの施設▽「アパート」と称して食事などを提供する施設など、法的位置づけのない施設の運営者。

法案はさらに施設による入所者の金銭管理を原則禁止し、入所契約については利用者と書面で結ぶことも義務づける。施設への立ち入り検査を拒否すれば、行政処分や刑事罰を科すこともある。

\*詳細 毎日新聞 5月31日

<http://mainichi.jp/select/today/news/20100531k0000m040105000c.html>

【若き介護士の悪意なき軽率行為、虐待でないが...】

栃木県内の介護老人保健施設や病院で、20～30歳代の職員が高齢者を携帯電話のカメラで撮影する不適切な行為が相次いで発覚した。

職員は行政や施設側の調査に、撮影した理由を「かわいかったから」などと説明しており、調査を行った関係者は「まるで記念撮影の感覚で理解できない」と首をひねる。日常の風景を気軽に撮影してしまう若者特有の感覚が、現場での軽率な行為に結びついているとの指摘もある。

情報法に詳しい白鴎大法学部の石村耕治教授は、「携帯電話を使い慣れた若い人たちは公衆の面前で写真を撮ることに慣れ、軽い気持ちで撮影している」と話したうえで、「入所者や患者の人権、職務意識についての指導を徹底しなければ、このような問題は今後も起こりうる。施設などは職員に対し、職業倫理について教育し、再発防止に努める必要がある」と指摘する。

\*詳細 読売新聞 5月25日

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20100523-OYT1T00891.htm>

☆このニューズメールにご返信いただいても☆  
☆事務局には届きませんのでご注意ください☆

=発行・製作=

宅老所・グループホーム全国ネットワーク

[http://www.clc-japan.com/takurousyo\\_net/](http://www.clc-japan.com/takurousyo_net/)

宮城県仙台市青葉区木町 16-30 シンエイ木町ビル 1 階 〒981-0932

=お問い合わせ= [takurousyo\\_net@clc-japan.com](mailto:takurousyo_net@clc-japan.com)

TEL : 022-727-8731 FAX : 022-727-8737

☆TEL/FAX 番号は、くれぐれもお間違いのないよう、ご注意ください。☆

=相談専用アドレス= [tnet\\_soudan@clc-japan.com](mailto:tnet_soudan@clc-japan.com)

---